



〒892-0841 鹿兒島市照国町13-42 カトリック鹿兒島司教区 電話099(26)5100 振込口座02030-2-8359 編集発行 教区広報部



教区の皆さん新年明けましておめでとうございませ

皆さんとの生活も三年目を迎えます。しかし、二年過ぎてても全ての小教区の訪問を終えることが出来ない

が出来上がっていて、今年が予定されています。また私は、七月の世界青年大会(シドニー)に団長として参加することになりました

また、レオ税所七右衛門を顕彰することは当然ですが、今年を「巡礼推進年」として毎月、日を決めて巡礼をシロザリオをささげ

者として、いつでも誰にでも喜んでザビエル様を紹介出来るようになったらと思

信者でない家族のいる人たち同士で定期的に分かち合いや祈りの時を持つとか。毎月一回は「家庭内宣教」の意向でミサを

是非整えて欲しいと思います。最後になりましたが、高齢のため病院や自宅で療養中の方々、入院中の皆さんにお願いがありません。皆さんが十字架の主と共に全てを受け入れて

### 新年の挨拶

## 皆さんの信仰が輝きますように！ — 一歩、一歩、チャレンジ、チャレンジ —

鹿兒島教区 司教 郡山健次郎

それは、皆さんがそれぞれの生活の場において「それでも、喜び・希望・感謝」を共に生きてくださっていることが良く分かったから

になりました。若者たちは単に司牧の対象なのではなく「若者による若者のための使徒職」が推進される

や徳之島でも同じような取り組みが出来ないでしょうか。すでに恒例化しつつある徳之島全島教会巡りもさらに巡礼としての性格を加味できるかもしれません。

島には鉄砲、これは物質文明の夜明けをもたらしました。このように、鹿兒島は歴史的にも近代日本文化の原点と言えます。そんな鹿兒島の信者として、さまざまなアイデアを出し合っ

とどのようにかかわるかは宣教上とても大事なことです。司祭が一人で出来ることではありません。各司牧評議会がチームを作って結婚前と結婚後の二人を丁寧にお世話する必要があります。子育て支援も必要にな

いろいろと書き並べましたが、鹿兒島教区に息づいている信仰の姿を眺めながら、更なる進化を遂げることが出来るのではないかと思います。

三年目の今年も、そうしたことを信者としての一貫した生き方と共に大切にしたいいくつかのことが心に去来しています。

二番目のことは何と言っても十一月二十四日の列福式にまつわる事柄です。奄美と鹿兒島からの大巡礼団編成の動きが始まっています。日本の教会が初めて

先月号にも書いたことですが、東市来も巡礼地にする価値があります。さらに、この東市来の信者たちは川辺に移住し、そこで絶えたのだそうです。そこにもかつて私たちが志を同じくした人々がいたしるしを残したいと思っています。

三つ目は、昨年派遣した宣教家族を巡ってです。私たち鹿兒島教区の家族も何とか宣教家族としての意識を高めることは出来ないのでしょうか。全員が信者でない家族が多い鹿兒島教区としてはそれなりの対応が求められています。例えば、

夫婦たちを支援する態勢を

喜びを伝え、いつも希望の証人としての日々を過ごしておられる皆さんの明かりが鹿兒島教区中で点滅している様を思い描きながら、皆さんの一年が慈しみ深い御父からの祝福で満たされるよう愛の祝福を送ります。

### 若者を巡って

先ずは若者たちのことです。ザビエル教会を中心に若者たちが活発な動きをしています。九州はもちろん日本全国とのネットワーク

自らの手で実現にこぎつけた歴史的な喜びの式典にこぞって参加し、殉教者たちの熱い思いに倣う巡礼となるよう願っています。

更に、鹿兒島に限って言えば「ザビエルガイド養成」が望まれます。日本の歴史を塗り替える出来事が始まった誉れある鹿兒島の信

宣教家族を巡って

司祭評議会

郡山健次郎(会長)、小川靖忠(副会長)、中野裕明(事務局長)、小隈憲士、寝占敦之、泉 浩二、頭島 光、大松正弘、内野洋平、M・ヴィゴロ

### 鹿兒島教区司祭団

司教 郡山健次郎  
名誉司教 糸永真一  
司教総代理 小川靖忠

### 鹿兒島地区

F・マリノ(始良)、寝占敦之(指宿)、泉 浩二(加世田)、小川靖忠(鴨池)、美島春雄、松森孝郎、P・アン、O・ベルナルディーノ(ザビエル)、J・ムイベルガ、W・フリチエル、頭島 光(谷山)、S・ロベルト(玉里)、竹山 昭(紫原)、牧山田一(吉野)、G・ティエン(種子島)、国原武志(国分)、永山幸弘(マリア山荘)、木村敏彦、中野裕明(教区本部)、岡 俊郎(研修の家)、田辺 徹、成相明人(引退)、浜崎眞実(出向)

### 大隅地区

M・ヴィゴロ(鹿屋)、東 研(大根占)、松田清四朗(志布志)、田原 章(垂水)

### 北薩地区

大松正弘(出水)、山口重義(阿久根)、M・アッシュヤー(入来)、J・レヒナ(大口)、J・ハンマ(川内)

### 大島地区

大野和夫(地区長館)、内野洋平(大笠利)、末吉卓也(瀬留)、橋口啓悟(大熊)、小隈憲士(名瀬聖心地区長)、H・ソーザ(小宿)、柳本繁春(古仁屋)、瀧 憲志、浜田盛茂(古田町)

### 徳之島地区

福崎英雄、H・ハヌス(母間)、T・メニツヒ(和泊)

### 司祭評議会

郡山健次郎(会長)、小川靖忠(副会長)、中野裕明(事務局長)、小隈憲士、寝占敦之、泉 浩二、頭島 光、大松正弘、内野洋平、M・ヴィゴロ

2008年 Yet...Joy! Hope! Gratitude! 平成20年

新風

新年明けましておめでとうございます。二〇〇八年という新しい時間を頂いた私たちは、この時間の中にどのような内容を盛り込むのでしょうか。

新しい歌を主に歌おう

「二年の計は元日にあり」とは日本では伝統的に言われていることです。私たち信者は頂いた信仰によつて、この時間を埋めていきます。日々の祈り、主日のミサ参加、秘跡を受けることなどによつて、ある人は結婚や叙階の秘跡を、ある人は病者の秘跡を受けることになるでしょう。祈りは神との絆を深めることでありますし、秘跡は

キリストとの出会いです。しかし、このような私たちの意向とは裏腹の、いわば完全に反対の流れが、私たちに覆いまします。それを時勢といえます。非人間的、非キリスト教的、非信仰的、非宗教的思想が大河のように社会の王道を流れていきます。人間の欲望を限りなく推し進めるこの時勢に私たちは乗り遅れまいとするのでしょうか？ 聖書で言うところの新しいさ

は、時間のそれではなく、質の問題です。つまり未熟なもの、不完全なものを新しくして、完全なものにする神の働きをさしています。互いに愛し合いなさいという「新しい掟」(ヨハネ福音書17章)はモーセの律法(旧約)を完成させました。この杯のあなた方のために流される私の血による「新しい契約」(ルカ福音書22章20節)は動物による不完全なけいにえを神に喜ばれ

二万人以上の参加者を募る

「ペトロ岐部と一八七殉教者列福式」

昨年十一月二十三日(金)、長崎大司教館で列福式拡大実行委員会が開かれた。集まったのは列福式実行委員会(委員長高見三明長崎大司教)、司教団のもとにある列聖列福特別委員会、長崎教区の列福実行委員会、長崎地区七地区長、それに長崎教区以外の教区担当者の面々。

人になる模様。もちろんこの数は概数なので、それ以上でも可能である。会場への参加方法として(日)教区主催の巡礼(月)小教区主催の巡礼(火)一般ツアー(水)個人などが考えられるが、いずれの方法であれ、整理券発行の都合上教区本部に通知するようにとの申し合わせがあった。

列福式への巡礼団募集

会議の趣旨は、一度一年後に迫った列福式に向けて、日本の全教区が力を合わせて、日本の教会の慶事としての盛り上げを目指すこと。会議には列福式に係る諸委員会のメンバーが一堂に会し、これまでの経緯やこれからの課題などについて話し合った。それによると列福式の

教区本部は長崎での列福式への参加のため次の巡礼コースを準備し参加者を募りたいとしている。(日)一泊コース(十一月二十四日・二十五日)「Aコース」二十四日(月)

鹿児島発(午前六時)バス(列福式参加・長崎市内(十二時)雲仙温泉「ホテル東洋館」(宿泊)二十五日(火)島原巡礼(熊本フェリー)鹿児島着(午後五時半)

「教区財政緊急募金」への協力に感謝!

昨年七月から実施された教区財政緊急募金は四百二十五万九千五百五十円(二〇〇七年十一月三十日現在)に達しました。これは予算六百万円の約六七%に当たります。約五カ月でこの数字です。皆様の寛大で温かいお気持ちに対し、心より感謝申し上げます。なお上記総額の内七十二万円は個人・匿名での献金であることを申し添えます。この募金はまだ緒にたばかりです。今年もどうぞよろしくお願いたします。教区会計担当 中野裕明

初夢は神の夢

初夢は神の夢

顧客管理は進化して、手元のパソコンで顧客の住んでいるところを地図上で特定出来るという。そういえば、自分のブログでもやっただことがある。確か、タイでの研修のときだ。住所を入力すると地図上の滞在先に緑のマークがつく。読者は地図を見ながらそれぞれに思いをめぐらす。考えてみると、車のナビゲーションシステムも全く同じことに気がついた。ナンダ、人々はとつと昔に同じことを考えていたのか。しかし、ボクが発明した？装置はこれらの装置とは目的というか動機が違ふ。小さな教区。どこかの国の小教区レベル。何となく自分を揶揄するような言い方をしてきた。今でも、信者の多い国の司教さんに聞かれたら、「小さな教区です」と言ってしまうことはある。けれども、我が家に帰るとそんな気持ちは失せぬ。それというのも、毎日のロザリオで各小教区を巡礼しているうちに、いつの間にか、気持ちに変化が生じたことによる。それは「少ない信者」に代わって「ナンダ結構なく散らばっているじゃないか」というものだった。言うならば、あのちよつとした発見をしたときのように人知れず嬉しい感じだった。そこで、博物館のあの装置が思い起こされたのだった。ボタンを押すと、施設全体の様子が明かりで示されるあの仕掛けだ。しかし、ボクの装置は最近自動更新して進化した。



KABAYAN SEKSIYON

Inspirasyon at Katotohanan ng Banal na Kasulatan

Ang Dios ang may akda ng Banal na Kasulatan. Ang makadios na kapahayagan ng katunayan, na nakapalob at ipinakilala sa libro ng Banal na Kasulatan, na isinulat sa ilalim ng inspirasyon ng Espiritu Santo.

"Para sa Santa Inang Simbahan, na umaasa sa panampalataya ng panahon ng apostoliko, tinanggap bilang sagrado at pinag-kanonikong aklat ng Luma at Bagong Tipan, kabuon at lahat, kasama ang lahat nilang bahagi, na sa katunayan, isinulat sa ilalim ng inspirasyon ng Espiritu Santo, mayroon silang Dios bilang kanilang may akda, at ipinamana ito bilang ganyan sa Simbahan mismo."

Ginabayan ng Dios ang mga nag-akdang tao ng sagradong aklat. Para mabuo ang sagradong aklat, nagpili ang Dios ng ilang mga lalaki, na kung saan ang Dios mismo ang nagpasok sa trabahong ito, punong-punong ginamit nila ang sariling kakayahan ng isip at kapang-yarihan sa dahilan na kahit siya ang kumikilos sa kanila at para sa kanila, ay parang sila ang tunay na may akda na nagsusulat kahit na ano ang gusto nilang isulat at kung ano pa."

Ang pinag-inspirasyonan na aklat ay nagtuturo ng katotohanan. Na kung gayon ang lahat ng mga ginagabayan, may akda o mga sagradong tagasulat, ang patibayan ay kailangan bigyan patibayan ng Espiritu Santo, kailangan matatag nating kilalanin ang aklat ng kasulatan, na may katapatan at walang maling turo ng katotohanan na kung saan ang Diyos, para sa ating kaligtasan, ninanais na makita ang pagtitiwala sa Banal na Kasulatan. Kung ganon ang panampalatayang Kristiyanismo ay relihiyon ng "Salita" ng Dios, hindi kasulatan at hindi piping salita, subalit naging laman at nabuhay. Kung ang kasulatan ay hindi labing patay na sulat, si Kristo, ang walang hanggan Salita ng buhay na Dios, kailangan, sa pamamagitan ng Banal na Espiritu, "bukas ang ating isipan na maunawaan ang kasulatan"

MALIGAYANG PASKO AT MANIGONG BAGONG TAON SA INYONG LAHAT



# 教皇大使が司牧的訪問

## 鹿児島・奄美で信者とふれあう

駐日バチカン大使アルベルト・ボッターリ・デ・カステッロ大司教が十一月二十五日(日)から三日間、司牧訪問で参事官のカレンガ・レオン・バディケベレ神父と共に鹿児島教区に滞在した。大使はこの間に本土地区の信者や県知事、鹿児島市長らと交流したほか奄美大島へ足を運び、数か所の教会を訪問するなど多くの信者とふれ合った。

郡山司教の司教叙階式を  
除くと駐日バチカン大使が  
教区を訪問したのは本土地区



和光園で祝福を与える大使

二十五日(日)午後、鹿児島入りしたカステッロ大司教は、鹿児島カテドラル・ザビエル教会で旧ザビエル教会鐘楼に飾られ、再び現教会のシンボルとして教会前に設置されたザビエル像を



①カテドラルでミサをささげる  
②教皇の使徒的祝福を送る大使 (大熊教会)

祝福し、その後集まった三百五十人余りの信者とミサをささげた。ミサの中で大司教は聖フランシスコ・ザビエルの鹿児島上陸に始まった日本におけるキリスト教を振り返り、来年の列福が決まったレオ七右衛門をはじめとする殉教者たちの存在の意義を語った。その上で「頂いた信仰を守り、伝えていく

ことは大切」と説いた。

ミサ後は、会場を城山観光ホテルに移し歓迎夕食会が開かれた。夕食会には、百五十人ほどの信者が参列し大使と交流したほか、伊藤祐一郎鹿児島県知事、森博幸鹿児島市長も教区の要請にこたえて出席し、郡山司教やカステッロ大司教と語りあった。

翌日の二十六日(月)、福昌寺、ザビエル上陸記念碑、聖血礼拝修道女会を訪問したカステッロ大司教らは、空路奄美へと向かった。奄美ではまず瀬留、大熊浦上の教会を訪問、各教会ごとに聖堂内で挨拶し、教皇からの使徒的祝福を送った。その後は、聖心教会で三百人を超える信者たちと荘厳なミサをささげた。説教した大司教は奄美大島から三人の司教が誕生し、また数多くの司教、修道者が生まれていること、これは「奄美の信仰の証」と賛辞を送った。

# 有馬信茂神父が帰天



トール会(ミュンヘン管区)に入会し初誓願を宣立、同会初の日本人会員となった。一九五九年九月二十一日司祭に叙階され、翌年帰国、その後は二〇〇四年に引退するまで徳之島や谷山、指宿、出水など教区内各地の教会と幼稚園で働いてきた。

神父の葬儀ミサと告別式は、十二月二十日(木)レデンブートル会

有馬信茂神父(レデンブートル会・谷山教会)が、十二月十九日(水)午前二時四十分、入院先の病院で急性呼吸不全のため帰天した。八十九歳だった。

一九一八年奄美大島は笠利町に生まれた神父は、一九五六年レデンブ



有馬師の着衣式

のためにささげてきた神父の働きを振り返り、彼から学んでこれからの生き方の指針にしたい」と話し、有馬神父の死を悼んだ。

ミサ後の告別式では司祭団を代表して中野裕明神父が、また信徒を代表して雨水新二さん(谷山教会)が弔辞を述べ、神父との思い出を紹介した。その後は、参列者が一人ずつ献花や焼香で有馬神父に別れを告げ、神父の棺を見送った。

翌二十七日(火)にハンセン病療養所内にある和光園教会を訪問した大司教が

病で社会からの偏見に苦しめられてきた入所者たちに「苦しみの多いところでは、キリストと一緒に苦しんでくださる」と励ましのメッセージを送ると「失われた羊を探しに来てくれてありがとう」と牧園忠義信徒代表が心のこもった感謝の言葉を述べた。どの教会でも大司教から教皇の使徒的祝福が送られたが、ここでは特に大司教が一人ひとりの頭に手を置き祝福を送った。

### 第14回カトリック日韓学生交流会

テーマ:「殉教-友のために命を捨てる。これ以上に大きな愛はない」  
期間:2008年2月22日(金)~27日(水) (22~23日:ホームステイ 24-27日:合宿)  
場所:長崎カトリックセンター(ホームステイは長崎教区内)  
費用:参加費(19,000円)+旅費  
定員:25人  
問合せ先:TEL 095-882-7140/FAX 095-882-7220  
e-mail kenichi2@d6.dion.ne.jp  
※参加人数に限りがありますが、お問い合わせください。

### 鹿児島地区カトリック連合壮年会

新年ミサ&新年会のご案内  
日時 1月19日(土)  
新年ミサ 17時30分  
新年会 18時30分  
会場 ザビエル教会  
参加費 千五百円  
申込み 連壮幹事会役員まで  
締切 1月13日(日)

### 1月

### 今月の暦

- 1日(火) 神の母聖マリア
- ▼世界平和の日
- 4日(金) デジャック神父命日(一九八九年)
- ▼七田八十吉神父命日(一九八〇年)
- 6日(日) 主の公現
- 7日(月) 教区司祭会・教区本部・16時
- 13日(日) 主の洗礼
- 14日(月) 永島泰蔵神父命日(二〇〇二年)
- 18日(金) キリスト教一致祈禱週間(25日まで)
- 19日(土) ハイシク神父命日(一九八九年)
- 20日(日) 年間第二主日
- 22日(火) 司祭大会・25日まで・かごしま第一ホテル
- ▼司祭評議会
- 25日(金) 聖パウロの回心
- ▼郡山健次郎司教霊名
- ▼定例司祭集会
- 26日(土) フェリエ神父命日(一九一九年)
- 27日(日) 年間第三主日
- ▼カトリック児童福祉の日(献金)





⑤赤尾木教会前で大使を見送る信者  
⑦希望の星学園前で大使を迎える関係者

得意の歌を披露する(城山観光ホテル)



聖心教会でミサをささげる

福昌寺で記念撮影



④聖心教会で説教する大使

### カメラ散歩

大使を追う



⑥希望の星学園を訪問



大使と一緒に記念撮影(瀬留教会)



気軽に信者とふれあう大使(聖心教会)



笠利聖母保育園の子どもたち

## 社会とつながって二十年

### きぼうの電話が感謝のミサ

「社会とつながる教会の活動をしよう」と苦しみ悩む人の声を聞き続けてきた「鹿児島きぼうの電話」が開局二十周年を迎え、十二月一日(土)午後、ザビエル教会でその記念と感謝のためのミサをささげた。

鹿児島きぼうの電話が開局したのは一九八七年十二月八日のこと、週に三日、一日六時間の活動からだった。それ以来、電話を受ける相談員養成に力を入れながら活動の時間を少しずつ延長し、現在の週五日(九時から十六時と二十時から二十三時)にまでたどり着いた。その間、運営資金の確保はもとより、相談員数不足等に苦しみながら

その歩みを進めてきた。この日のミサには、関係者約三十人が集まり、吉野教会主任司祭時代に鹿児島きぼうの電話開局に尽力した郡山司教司式でその喜びを分かち合った。

### カウンセラーにシスター澤を認定

シスター澤やエ子(レデンプション宣教修道女会)が、臨床パストラルケアカウンセラーに認定された。臨床パストラルケア教育センター(W・キッペス所長・レデンプション会)が認定するこの資格は、百二十時間の哲学・

「長期間かかってようやく認定書をいただくことができました。この学びを通して自分自身の人生の歩みを深く学べた。人間の全人格的痛みをどのように聴き、受け留めるか、また共に癒していただく道を探しながら、互いに成長していくことができるかがこれからの課題」と抱負を語った。

### 司祭の消息

#### ▼木村敏彦神父

二〇〇六年十二月から鹿児島大学附属病院に入院し治療を続けてきた木村敏彦神父(鴨池教会協力司祭)が、十二月十八日(火)仮退院した。今後は週一回血液検査のため病院に通いながら体力の回復に努める。

### 「短信」

#### ▼吉野教会堅信式

十二月二日(日)吉野教会で堅信式があり、八人が受聖した。

▼各地で市民クリスマス  
十二月九日(日)大口、川内、鹿児島各地でカトリックとプロテスタントが協力して市民クリスマスを開いた。

## 文芸

### 俳句(思川俳句会作品)

#### 市来房枝選

純心学園 山頭 信子  
列福の祈願の太鼓鳴り渡る  
(評)レオ七右衛門殉教の紙芝居「もうでござるか」が好評だったこと。

出水 沖 弘子  
元朝の街駆けて来し人力車  
(評)いつもと違う元旦の情景が旨く切り取られた二句

出水 遠竹 睦郎  
霧島の峰に樹の花咲けり  
(評)一足早く訪れる冬景色が美しい。早掘りの筍を掘りゆく冬山に

純心学園 川上 和  
クリスマスポインセチアの出番待つ  
鹿児島 徳永ノブ子  
母よりも生命永らへ木の葉髪

### 国分政ノブ子

改装を終えし聖堂秋深し  
鹿児島 春山マリ子  
苦楽ある日々の営み主に捧ぐ  
阿久根 中津濱フサエ

椰子の下ブーゲンビリアの華げり  
鹿児島 龍門司真人  
日向ぼこ喜寿の女ら足袋比べ  
おみな 足袋比べ  
ほろほろと鳩鳴き終へて除夜の鐘

短歌(思川短歌会作品)

### 市来房枝選

鹿児島 前田 儀子  
保育器の嬰兒いくつも管引きて娘の乳をふくまずに逝く  
(評)元気に子どもが育つのがお恵みであるということ知らされた。

大 口 森 博伸  
さざんかの花びら白く散り敷きて朝霧深き今朝の冷え込み

(評)声調が整っていて清々しい。

出水 遠竹 睦郎  
不知火の海に白帆を孕ませて海老獲る舟のあまた浮かべり  
純心学園 川上 和

ひらひらと舞ひ散る銀杏を手を受けぬ去りゆく秋のいのち一片  
(評)落ち葉の一片を愛しんで詠まれた一首。下の句の表現が絶妙

奄美 林 常広  
出稼ぎに行く船中にまじまじと妻の写真を見つめつつをり  
鹿児島 春山マリ子

目を閉じて黙想すれば一筋の光の糸が脳裏かすめり  
奄美 林 明子  
聖霊の宿し給ひし幼な子のほほえみ吾に愛を運び来

選者詠  
苔むしし石に十字の刻まれてギリシタン墓地に夕陽まふしも